

子どもが語る “シェルターと私”

内容

- ① てんぽの活動報告
- ② 子どもが語るシェルターと私
- ③ パネルディスカッション
「広げよう!子どものシェルター」

- ◆コーディネーター 影山秀人(NPO法人子どもセンターてんぽ理事長)
- ◆パネリスト 阿部裕子さん(NPO法人かながわ女のスペースみずら 理事)
川村百合さん(弁護士・社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事)
東玲子(NPO法人子どもセンターてんぽ理事)
神奈川県児童相談所職員の方

「てんぽ」がシェルターを開設して5年目!
実際に「てんぽ」を利用した子どもたちの生の声に耳を
傾けて下さい。
子どものシェルターの意義を、共に考えてみませんか?

平成23年 5月21日(土)

午後1:00～4:00 ◎開場 12時30分

会場：横浜市開港記念会館 講堂(地図裏面参照)
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kaikou/acces.html>)

先着300人 参加費：無料

主催：NPO 法人子どもセンターてんぽ

後援：神奈川県 神奈川県教育委員会 神奈川県社会福祉協議会
横浜市 横浜市社会福祉協議会 tvk 神奈川新聞(申請中を含みます)

子どもセンターてんぽは、平成19年4月に全国で3番目となる子どものためのシェルターを開設し、今日までに多くの子ども達がシェルターで休み、また社会へ戻って行きました。彼らには「安心して過ごせる居場所がない」という共通項はありましたが、親と一緒に住んでいた家から避難しなければならなかった子、児童養護施設を退所してしばらくしてから居場所に困ってしまった子、住み込み就職先をやめることになり仕事と家を同時に失ってしまった子…てんぽに来た事情や抱えている課題はさまざまでした。

また、全国各地にシェルターの開設が続いており、シェルターの必要性を私たちの社会が確信するようになったと感じています。

そこで、5年目という節目を迎えようとしているこの時期に、私たちがシェルターで出会った子ども達の声、他のシェルター（東京の子どもシェルター、すでに制度化されている女性のシェルター）の実情、児童福祉の現場で専門家が直面している現実などを参考にしながら、改めて子どものためのシェルターの存在意義、必要性、シェルターが直面している課題について、みなさまと一緒に考える機会をもちたいと考えています。

「子どもセンター てんぽ」は・・・

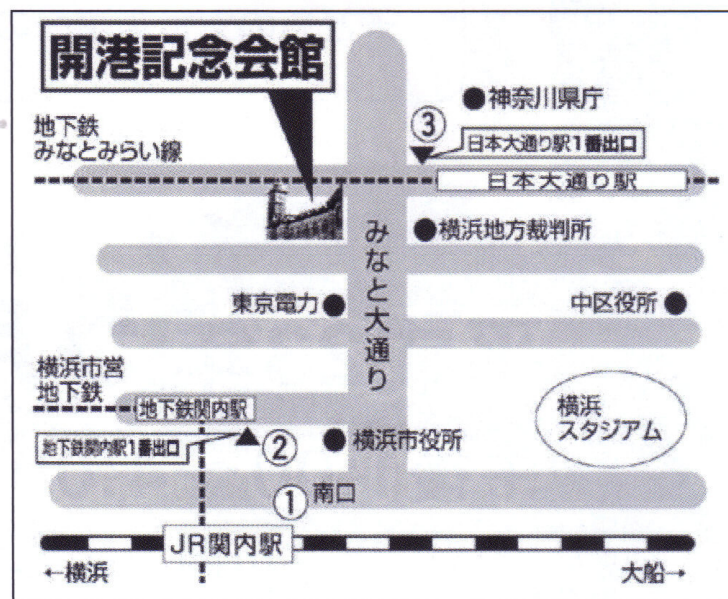
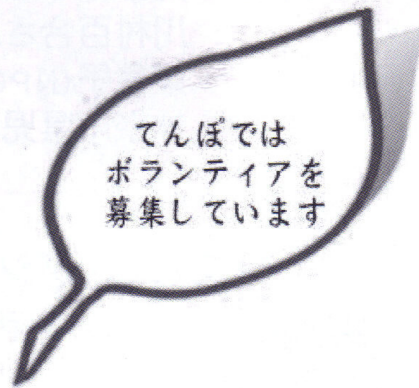
神奈川県内の児童福祉に関心のある有志が集まり、子ども達の自立を支援することを目的に設立されたNPO法人です。

平成19年4月、児童虐待などが理由で安心して生活できる場所がない子どものための緊急避難施設（シェルター・定員4名）を開所しました。

平成22年6月には、南足柄市に、自立援助ホーム「みずきの家」（定員女子6名）を開所しました。自立援助ホームは、何らかの理由により家庭で生活できなくなり、働かざるを得なくなった子どもたち（原則15歳から20歳）が、共同生活を通して自立のための準備をする施設です。

私たちは、シェルターや自立援助ホームで、安全・安心・清潔な住まいとおいしい食事を提供しながら、利用する子ども達の人権を守り、ひとりひとりの自立に向けたペースを尊重し、いつも真剣に、ねばり強く、寄り添います。私たちは、利用する子どもが望む時（退所後も）けっしてその子どもをひとりにはしません。

ホームページ： <http://www.tempo-kanagawa.org/>



横浜市中区本町1-6

※車でのご来場はご遠慮ください。